

厳しい冬に備えて種や実を貯蔵する鳥たち

ヤマガラとカケス

長谷川 裕子

天覧山・多峯主山では、ミゾソバやサクラタデなどタデのなかまが咲き、サシバやノスリの渡りが見られ、秋らしくなってきました。今回は、厳しい冬に備えて食べ物を貯蔵する鳥の例として、ヤマガラとカケスをご紹介します。



写真 1 ヤマガラ 河合裕氏撮影



写真 2 エゴノキの実に足をかける
ヤマガラ
河井裕氏撮影



写真 3 コナラのどんぐりをくわえる
カケス
河井裕氏撮影

ヤマガラは、大きさ 14cm くらいのシジュウカラのなかま(シジュウカラ科)です(写真 1)。お腹の色がくすんだ橙色をしているため、まだ青葉が茂っている今の時期でも比較的見つけやすいです。

ヤマガラの好物は、エゴノキの種子です(写真 2)。エゴノキの果皮(果肉と皮のこと)には、エゴサポニンと呼ばれる有毒物質が含まれています。この物質には界面活性作用があることから、エゴノキの実はかつて石けんとして使われていました。ヤマガラは両足に実をはさみ、くちばしを器用に使ってつつき割り、種を取り出して食べます。そして、その場で食べるだけでなく、冬に備えて多くの種子を木の皮や隙間、土の中に貯蔵します。もしもエゴサポニンに興味があり、川や池などでエゴノキの実で泡を作った場合は、その場で流さず持ち帰ってください。その泡によって魚が死んでしまうことがあるからです。

カケスは、大きさ 33cm くらいのカラスのなかま(カラス科)です(写真 3)。翼の一部が白と青と黒の縞模様で、遠くから見てもその鮮やかな羽根が目立ちます。鳴き声はカラスに似ていて、「ギャーギャー」、「ジェーゲー」などと鳴きます。カケスの好物は、コナラなどのどんぐりです。数個のどんぐりをのどに入れて、くちばしにも啜って運び、木の皮や隙間、土の中に貯蔵します。

ヤマガラとカケスは、せっせと実や種子を貯蔵しますが、その場所を忘れてしまうことがあります。しかし、そのことによってエゴノキやコナラなどは種子散布に成功し、春に発芽することができます。ヤマガラとカケスは、知らず知らずのうちに森を育てているのです。

このような採食や貯蔵行動は、今の時期に観察しやすいので、散策する時にはぜひ周りの木々にも注目してみてください。天覧入り谷津田へ向かう途中では、エゴノキに集まるヤマガラに、天覧山山頂ではどんぐりをくわえるカケスに出会えるかもしれません。

【参考文献】(順不同、※印は飯能市立図書館に蔵書があります)

- 1)樋口広芳・石田光史『ぱっと見わけ 観察を楽しむ野鳥図鑑』ナツメ社 平成 27(2015)年
- 2)叶内拓哉ほか『山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥』山と溪谷社 平成 26(2014)年※
- 3)村上智美・林田光祐・荻山紘一(2006),ヤマガラによる貯蔵散布がエゴノキ種子の発芽に及ぼす影響,日本森林学会